



ITCながさき@JSB

事例発表

有限会社浜崎製麺所

DX活用による地域商品「五島うどん」の振興

2024年11月30日

TABLE OF CONTENTS

- 01 組織及び会社概要
- 02 取り組みのきっかけ
- 03 取り組み内容
- 04 乾燥工程の可視化
- 05 DX戦略策定とDX認定
- 06 現在の実施事項
- 07 今後の展望
- 08 気づき

01 組織及び会社概要



組織名	ITCながさき@JSB
事業内容	県内ITCの協業や勉強会
設立	2021年11月
所属人数	20名(2024年10月末時点)
会員企業業種	金融機関、ITベンダー、土業など



01 組織及び会社概要

会社名	有限会社浜崎製麺所
事業内容	五島うどんの製造販売、飲食店経営
設立	1989年11月
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町丸尾郷 1 3
従業員数	35名
資本金	5,000,000円
飲食店屋号	麺's はまさき



02 取り組みのきっかけ

業界共通の悩み. . .

01.先代の想い

- ・ 麺の乾燥工程においては職人が長年培った経験と勘が必要
- ・ 肌感覚の仕事を後継者に伝承させるのは難しい
- ・ 昼夜問わず作業する必要があり労働環境が過酷

02.社長の想い

- ・ 属人的な作業を解消させたい
- ・ 身体的な負担が大きいので減らしたい
- ・ 五島うどんを伝承させるためにも対応が必要

03.地域の課題

- ・ 島内居住者の高齢化
- ・ 人口減少
- ・ 人手不足によるブランド消滅の危機



03 取り組み内容

段階を追いながら課題解決のために伴走支援

01

乾燥工程の可視化

- ・ 補助事業を活用し実証実験
- ・ ITベンダーと協業し、センサーを活用した温度湿度等の見える化に着手
- ・ IoT活用による遠隔操作
- ・ 同業者への横展開検討

02

DX戦略策定とDX認定

- ・ 経営ビジョンの明確化と業務課題の解決に向けた戦略策定実施
- ・ 補助事業を活用し戦略策定
- ・ 取組方針決定→ロードマップ
- ・ DX認定申請(2024年7月採択)

03

バックオフィス業務効率化

- ・ DX戦略に沿って実施
- ・ 勤怠、給与、労務のバックオフィス業務の効率化に着手
- ・ 費用負担軽減のため長崎県の補助金を活用

04 乾燥工程の可視化

主なサポート内容

補助事業の活用

- ・ 長崎県内の補助事業「先端技術導入促進事業」を活用
- ・ 当社の現場課題や実施したい事項等を取りまとめ

ベンダーマッチング

- ・ 当社の要望や実現したい未来像をベンダーと共有
- ・ 実証実験に協力できるベンダーをマッチング
- ・ 実証実験に向けたMTGや現地調査に同席

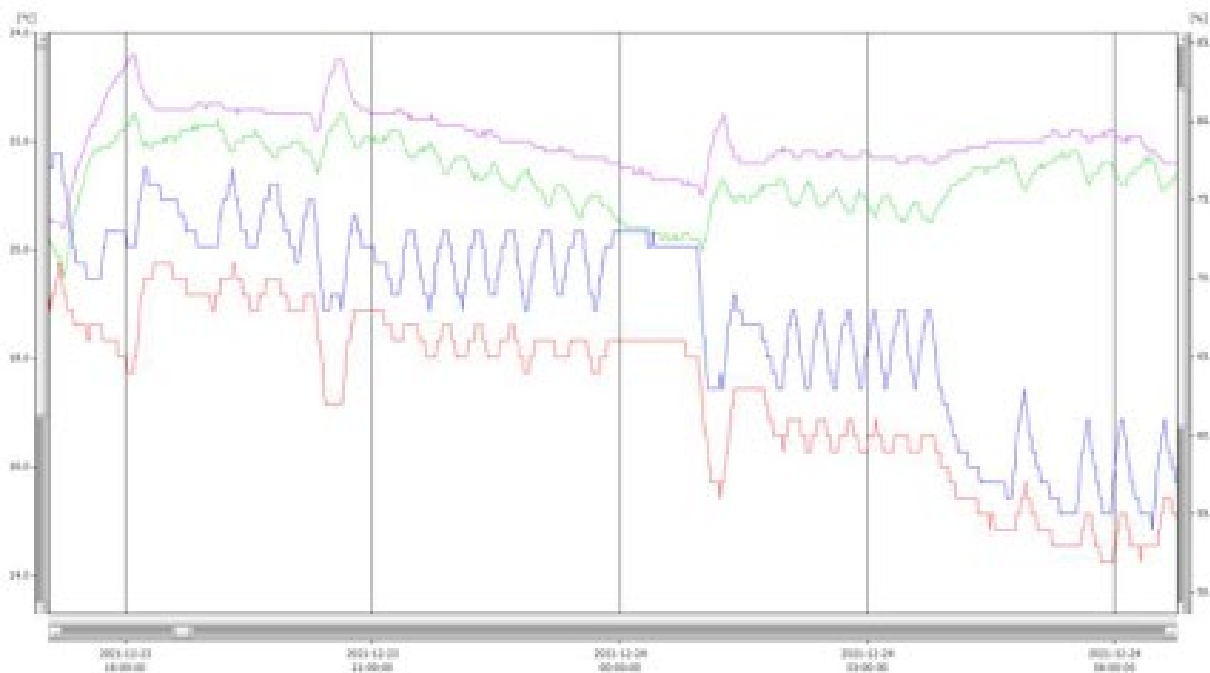
実証事業の伴走支援

- ・ 課題に対しての解決策を模索しながら伴走支援
- ・ データ化はできたものの新たな課題が顕在化

アフターフォロー

- ・ 顕在化された課題解決に向けて対応策を当社およびベンダーと検討
- ・ 段階的な解決に向けてフォロー実施

04 乾燥工程の可視化



夜間乾燥時間帯の温度・湿度の変化を可視化することができた。



05 DX戦略策定とDX認定

主なサポート内容

補助事業の活用

- ながさきDX推進プロジェクト（経済産業省「地域DX促進環境整備事業」）に参画
- DX戦略策定及びサイバーセキュリティ対策の伴走支援

DX認定申請

- 策定したDX戦略を基にDX認定申請
- 2024年7月：県内4例目として採択
- 長崎県内の離島企業として“初”認定



DX戦略策定

- 現状分析～課題抽出～対応策検討
- あるべき姿を描き、戦略を伴走支援にて策定



05 DX戦略策定とDX認定

(目指す姿)

上五島の地場産業、名産品である五島うどんをより多く広めると同時に地域を盛り上げるために、業務効率化と生産性向上を図り永続的な事業継続と顧客ニーズを素早く捉え適応できる社内体制を構築する

(現在)

- ✓ 各種情報はバラバラに管理しており最新情報がわからない
- ✓ 基本紙への記載が多いため、転記作業が発生
- ✓ 事務員の負担も多く、繁忙期にはリソースが足りない
- ✓ 製造力の強化については人員不足もあり難しい
- ✓ 職人の勘や経験で行っているため、後継者への伝承が難しい
- ✓ 新規顧客の獲得が思うようにできていない

(5年後の未来)

- ✓ 情報を電子データで管理し二次利用や活用できるようにする
- ✓ デジタル化により人手不足を補い、繁忙期にも余裕を持った組織体制にし、製造に注力できるようにする
- ✓ 一部工程の機械化により人材不足を補う
- ✓ 職人の勘や経験を形式知化し、安定した製造と後世に残す
- ✓ 新規顧客を常に獲得でき、かつリピート客を増やせる状態にする

(デジタルでやるべきこと)

1. 製造工程や情報の見える化

- ・ 勘や経験で行っていた製麺工程を、データ分析することで可視化する
- ・ 材料の使用量や在庫管理をデータ管理することにより廃棄ロスや機会損失を防ぐ
- ・ 過去情報を活用、分析を行い需要予測を実施。製造ロスが少ない体制構築

2. バックオフィス業務のデジタル化と効率化

- ・ 各種情報(勤怠、受発注etc)の記録をデジタル化し、二次利用ができる環境構築
- ・ 転記作業や二重作業などを廃止し事務作業を効率化。製造に注力できる体制構築
- ・ 過去情報を活用、分析を行い、攻めの経営を行う

06 現在の実施事項

主なサポート内容

補助事業の活用

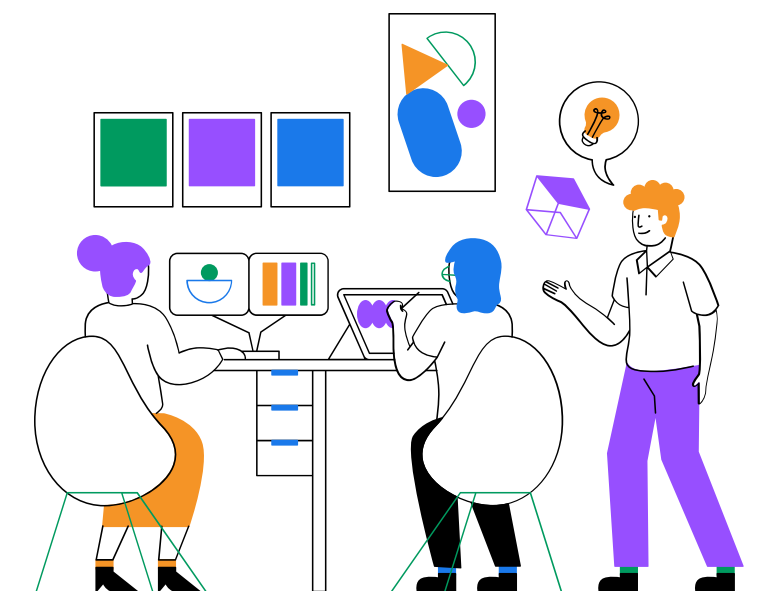
- ・ 長崎県の補助金を活用
- ・ 実施する項目を戦略を基にすり合わせ
- ・ DX戦略に沿って申請内容作成

支援領域

- ・ 勤怠・給与・労務のバックオフィス業務
- ・ アナログ→デジタルへ
- ・ データ連動による業務効率化

伴走支援

- ・ 計画策定～導入支援～従業員説明
- ・ 管理者育成
- ・ ルール変更や独自ルールの撤廃



07 今後の展望

戦略策定と業務効率化への道筋

攻めの経営への道筋



08 気づき

- 銀行員ITCの存在と役割

- ⇒身近な存在であり相談相手

- ⇒中小企業の支援機関

- 課題

- ⇒(支援者側)支援人財の育成と支援体制の構築、マネタイズ

- ⇒(ユーザー側)経営・現場での認識相違

- 今後の発展

- ⇒支援機関同士の連携と協力

- ⇒デジタル経営のプロセス浸透

感想



ご清聴ありがとうございました



浜崎製麺所

